

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	売掛金
前払金	仮払消費税	建物	土地
買掛金	未払金	仮受消費税	未払消費税
貸倒引当金	資本金	売上	仕入
消耗品費	支払手数料	租税公課	貸倒損失

- 土地付き建物¥5,000,000（うち建物¥1,500,000、土地¥3,500,000）を購入し、売買手数料（本体価額の4%）を加えた総額を普通預金口座から振り込むとともに引き渡しを受けた。
- 収入印紙¥10,000を購入し、代金は現金で支払った。なお、この収入印紙はただちに使用した。
- 得意先岡田商店が倒産し、同店に対する売掛金¥230,000（前期分¥90,000、当期分¥140,000）が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金の残高は¥85,000であった。
- 1株当たり¥50,000の株式を20株発行し、すべての代金の払込みを受けて会社を設立した。払込金はすべて普通預金口座に預け入れられた。発行価額は全額資本金とする。
- 商品を仕入れ、商品とともに右の納品請求書を受け取り、代金は後日支払うこととした。なお、消費税は税抜方式で記帳する。

納品請求書		令和2年〇月〇日	
株式会社 ○○○○ 御中		No.123456	
		CPA株式会社	
		〒○○○-○○○	
		XX県XX市XX町XX-XX	
		Tel: 1234-56-7890	
品物	数量	単価	金額
防護服	3	¥ 23,000	¥ 69,000
不織布マスク50枚入り	6	¥ 3,500	¥ 21,000
除菌スプレー業務用	5	¥ 8,000	¥ 40,000
合 計			¥130,000
消 費 税 (10%)			¥ 13,000
総 合 計			¥143,000

以上の金額をご請求いたします。

第2問 (8点)

次の【資料】にもとづき、以下の問に答えなさい。

【資料】 2X20年5月中の取引

- 1日 備品¥600,000を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
- 3日 得意先に商品¥250,000を掛けて販売した。また、得意先負担の発送費¥3,500は現金で立替払いしたため、掛代金に含める。
- 15日 仕入先から商品¥180,000を仕入れた。なお、仕入先に前払いしていた¥60,000を充当し、残額は掛けとした。

問1 2X20年5月中の取引が、答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるか答えなさい。なお、解答にあたっては、各取引が記入されるすべての補助簿の欄に○印をつけること。

問2 1日に購入した備品を、2X34年の1月31日に¥180,000で売却したとする。この備品は減価償却をしており、耐用年数20年、定額法、残存価額ゼロで計算している。決算日は3月31日である。この取引における固定資産売却損益を答えなさい。なお、答案用紙の( )内の損か益のいずれかに○印をつけること。また、減価償却は月割りで行うこと。

第 3 問 (30 点)

次の [資料 I] と [資料 II] にもとづき、答案用紙の 2X19 年 8 月 31 日における合計残高試算表を作成しなさい。

[資料 I] 2X19 年 7 月 31 日の合計試算表

合 計 試 算 表		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
45,800	現 金	15,000
980,000	当 座 預 金	225,000
223,000	受 取 手 形	
587,500	売 掛 金	64,500
85,000	仮 払 金	
102,000	繰 越 商 品	
1,200,000	備 品	
	支 払 手 形	321,000
95,300	買 掛 金	453,300
	前 受 金	63,000
	未 払 金	150,000
123,000	所 得 税 預 り 金	160,000
	備品減価償却累計額	960,000
	資 本 金	1,000,000
	繰越利益剰余金	204,800
	売 上	4,628,000
2,430,000	仕 入	
90,500	水 道 光 熱 費	
300,000	支 払 家 賃	
1,800,000	給 料	
142,500	旅 費 交 通 費	
40,000	減 価 償 却 費	
8,244,600		8,244,600

[資料 II] 2X19 年 8 月中の取引

- 1 日 新たに備品 ¥240,000 を購入し、代金は後日支払うこととした。
- 2 日 池袋株式会社から商品 ¥300,000 を掛けて仕入れた。
- 4 日 未払金 ¥100,000 を当座預金にて支払った。
- 5 日 横浜株式会社に商品 ¥550,000 を売り上げ、代金は掛けとした。なお、先方負担の発送費 ¥4,500 を現金で支払い、この金額は掛代金に含めることとした。
- 7 日 先月の給料にかかる源泉徴収税額 37,000 を現金で納付した。
- 9 日 従業員が出張から帰社したため、旅費交通費の精算をし、残額の ¥28,500 を現金で受け取った。なお、出張に際して、この従業員に現金 ¥85,000 を仮払いしていた。
- 12 日 売掛金のうち ¥113,000 が当座預金口座に振り込まれた。
- 14 日 渋谷株式会社から商品 ¥270,000 を仕入れ、代金は手形を振り出して支払った。
- 16 日 新宿株式会社に商品 ¥630,000 を売り上げ、手付金 ¥63,000 を差し引いた残額は当社あての約束手形を受け取った。
- 18 日 買掛金 ¥150,000 を当座預金口座から支払った。
- 20 日 給料 ¥450,000 の支払いにさいして、所得税の源泉徴収額 ¥40,000 を差し引き、残額を当座預金口座から支払った。
- 22 日 水道光熱費 ¥22,000 と当月分の家賃 ¥75,000 が当座預金口座から引き落とされた。
- 31 日 備品について当月分の減価償却費を計上した。なお、当社は 3 月末決算であり、耐用年数 10 年、定額法、残存価額ゼロで月割り計算している。

#### 第 4 問 (12 点)

次の 5 月における A 商品に関する<取引等>にもとづいて、下記の問に答えなさい。

##### <取引等>

5 月 1 日	前月繰越	80 個	@	¥1,200
7 日	仕入	120 個	@	¥1,250
12 日	売上	100 個	@	¥2,000
17 日	売上返品	12 日に売り上げた商品のうち品違いのため 10 個返品 (受入欄に記入すること)		
22 日	仕入	110 個	@	¥1,270
28 日	売上	150 個	@	¥2,000

問 1 5 月の A 商品の商品有高帳を作成しなさい。なお、払出単価の決定方法は移動平均法を採用し、摘要欄の記入は「仕入」「売上」「売上戻り」とする。

問 2 商品の払出単価の決定方法として先入先出法を用いた場合における、5 月の純売上高と月末商品棚卸高を答えなさい。

#### 第 5 問 (30 点)

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間である。

##### 決算整理事項等

1. 売掛金のうち ¥300,000 はクレジットカード決済による販売であった。なお、信託会社に対するクレジット手数料 (決済金額の 3%) を計上する。
2. 現金過不足勘定は、帳簿有高が実際有高を超過していたため計上したものである。調査の結果、期中に商品を仕入れた際、仕入代金 ¥125,000 をすべて掛取引として記帳していたが、そのうち ¥25,000 は現金で支払っていたことが判明した。残額については不明であるため、雑損または雑益として計上する。
3. 消費税の処理を税抜方式で行う。
4. 残高試算表に計上されている租税公課勘定は、期中に購入した収入印紙を計上したものである。当期末において ¥3,500 分が未使用であった。
5. 売上債権の期末残高に対して 2% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
6. 期末商品棚卸高は ¥130,000 である。なお、売上原価は「仕入」の行で計算する。
7. 建物および備品について減価償却を行う。  
建物：残存価額ゼロ 耐用年数 40 年 定額法  
備品：残存価額ゼロ 耐用年数 8 年 定額法
8. 12 月分の従業員に対する給料の未払いが ¥147,000 ある。
9. 保険料は当期の 11 月 1 日に 1 年分を前払いしたものである。
10. 当期における法人税、住民税及び事業税は ¥361,500 であった。